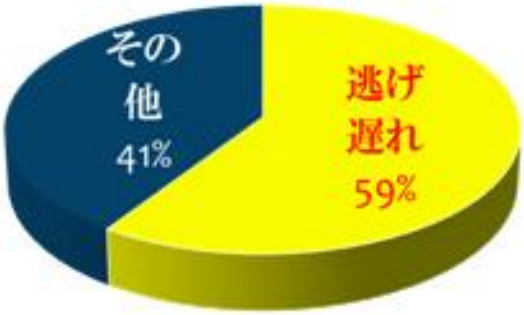
# なぜ住宅用火災警報器が必要？

建物火災による死者の割合
（H21年中）

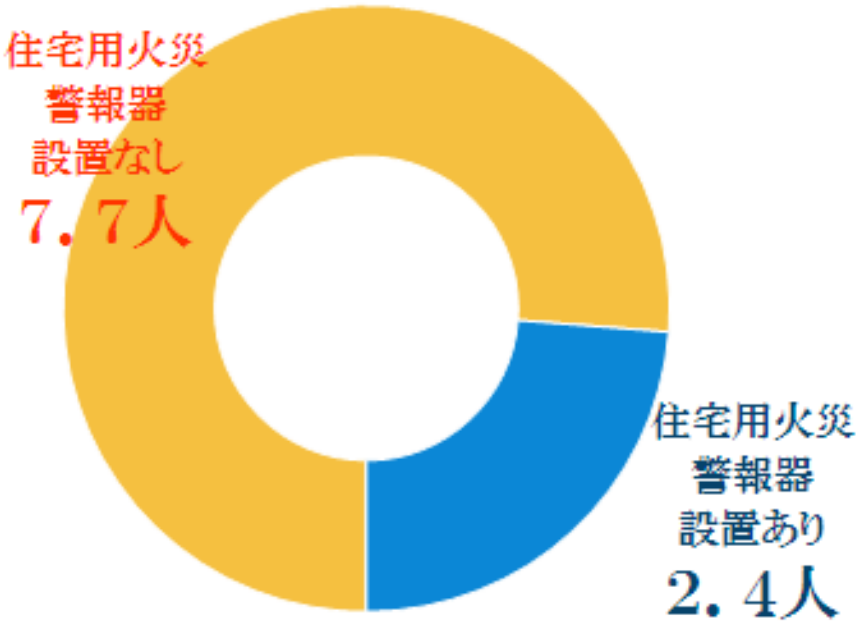
建物火災による死者の
死亡原因（H21年中）




- 建物火災における**死者の9割**が**住宅火災**によるもの
- 火災による死亡原因の**6割が逃げ遅れ**によるもの
- 火災による死者は**就寝時間帯**が圧倒的に多い
- 住宅火災における**死者の6割**が**高齢者**

# 住宅火災100件あたりの死者数の比較

（平成18年中 全国）



## 住宅用火災警報器（例）

天井取り付け型

壁掛け型

日本消防検定協会の「ＮＳマーク」

※ 購入する際は、「NS」マーク付きが安心です。

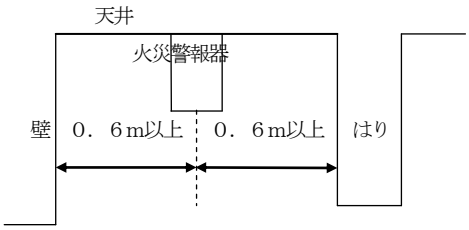
## ★ 取付け位置

① 天井に設置する場合 → 壁又ははりから０．６ｍ以上離れた天井部分

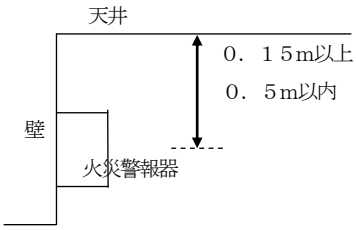
② 壁に設置する場合 → 天井から下方０．１５ｍ以上０．５ｍ以内の位置にある壁面部分

③ そ　　の　　他 → エアコンなどの空気の吹出し口から１．５ｍ以上離れた位置

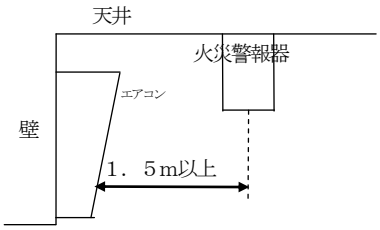
①




②




③



# ★ 取付け場所（下図参照）

① **寝室**として使用する部屋**(ケース１～１１)**

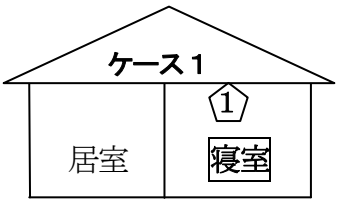
② 寝室がある階から直下階に通ずる**階段**（屋外階段を除く。）**(ケース３～４・６～１１)**

③ 寝室がある階から２階下の階の**階段**（寝室がある階の直下階の階段に住宅用火災警報器等が設置されている場合を除く。）**(ケース７・９～１１)**

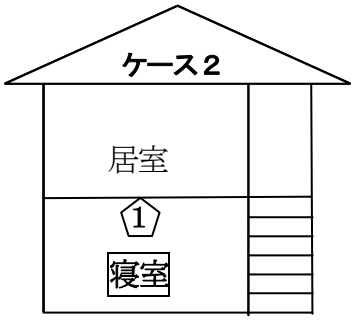
④ 寝室がある階（避難階に限る。）から２以上上階に居室がある場合の**階段(ケース５)**

⑤ ①から④までに該当しない階で、７㎡以上の居室が５以上ある場合の**廊下(ケース１２)**

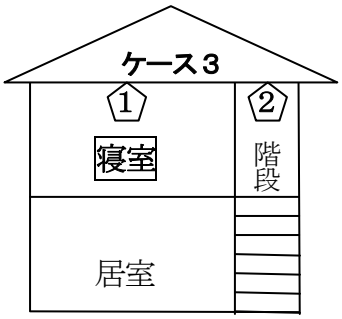
平屋建ての場合



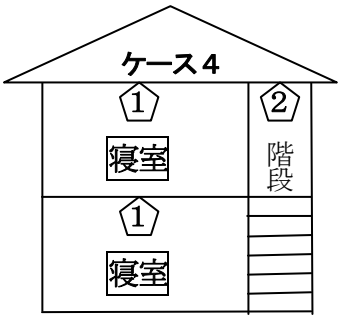

２階建ての場




● 寝室：１Ｆのみ

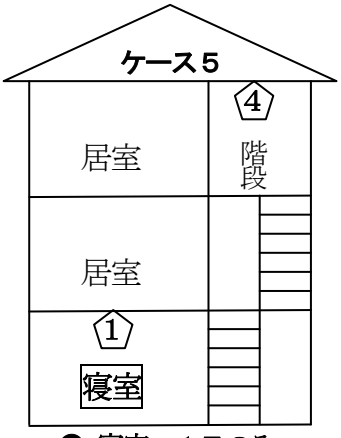



● 寝室：2 Ｆのみ

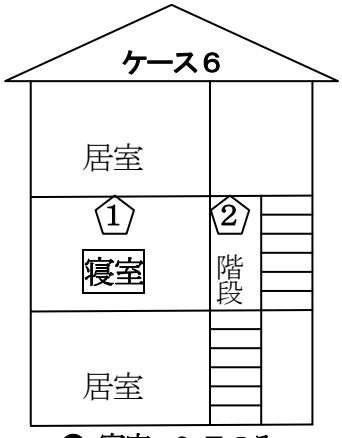



● 寝室：１Ｆ・2 Ｆ

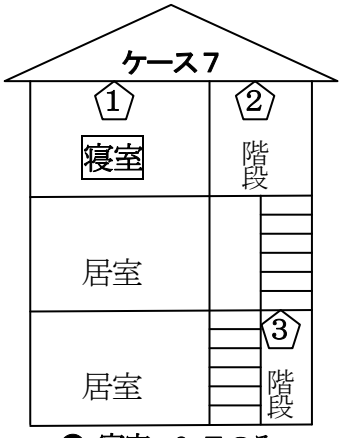
３階建ての場合



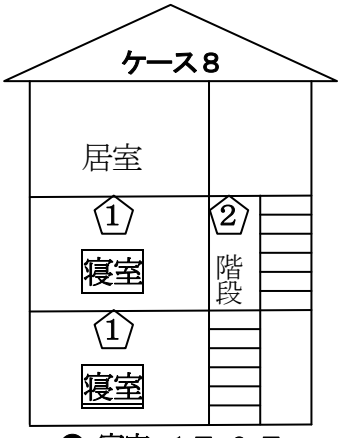

● 寝室：１Ｆのみ



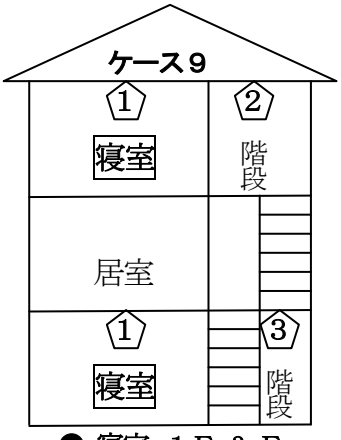

● 寝室：2 Ｆのみ



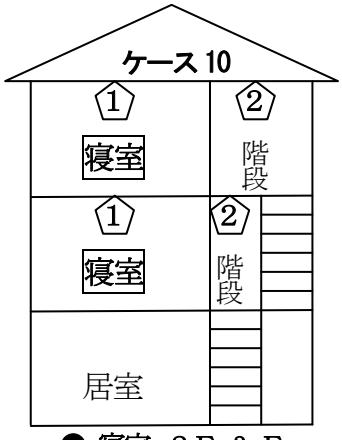

● 寝室：3 Ｆのみ



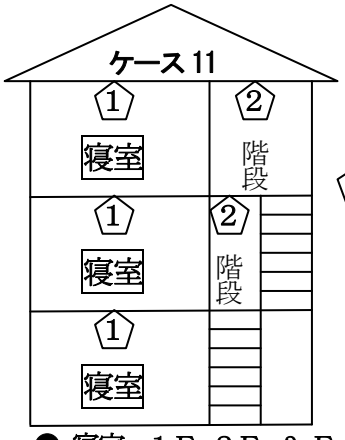

● 寝室：１Ｆ・2 Ｆ



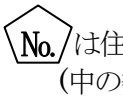

● 寝室：１Ｆ・3 Ｆ




● 寝室：２Ｆ・3 Ｆ

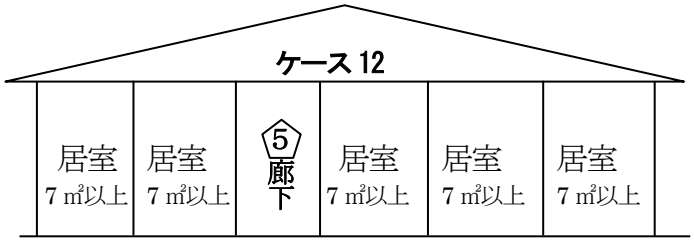



● 寝室：１Ｆ・２Ｆ・3 Ｆ




は住宅用火災警報器等を示す。
(中の数字は取付け場所の種別)

警報器を設置する必要がない階(寝室がない階)で７㎡以上の居室が５以上ある場合




※　７㎡以上の居室とは、概ね４畳半以上となります。

**※　住警器には、煙を感知する「煙式」と、熱を感知する「熱式」がありますが、設置が義務付けられているのは、「煙式」です。**

**※　台所に設置する場合は、「熱式」をお勧めします。**

**※　住警器を設置した場合の届け出義務や検査、及び設置しなかった場合の罰則などはありません。**

**※　ご自身やご家族の命を守るために、一日も早く設置しましょう。**

**問い合わせは・・・伊予消防等事務組合砥部消防署　962－2119**
**伊予消防等事務組合砥部消防署広田出張所　969－2121**